

税理士事務所における 生成AIの活用法と リスクを考える

2025年11月20日 | 小林友博

はじめに

生成AIの直近の流れと基本

生成AIとは？

💡 **定義:** 新しいデータやコンテンツを生成できる人工知能の一種。

🌿 **能力:** 膨大なデータをもとに、既存の情報を整理するだけでなく、新しい
アウトプットを生み出す。

進むAIの民主化

AIの民主化とは？

AI技術が特定の専門家や大企業だけでなく、誰でも容易に利用できるようになり、その恩恵を享受できるようになった状況を指します。

特にChatGPTなどの出現により、今までは専門的なプログラミング技術がなければ使えなかった生成AIが、自然言語で話しかけるだけで使えるようになりました。

進むAIの民主化

指数関数的な性能の向上

2022年末頃、ChatGPTが登場した時に触れて、「返答が不自然だ」「指示の意図を汲み取れない」「まだ実用的ではないな」と感じた方も多いかもかもしれません。

しかし、現在のAIは当時のAIとは全くの別物です。

AIの性能は直線的(徐々に)ではなく、指数関数的(爆発的)に向上しています。

進むAIの民主化

最新のAIを試してみませんか？

あの時「ちょっと違うな」と感じた体験は、もはや過去のものです。

「おもちゃ」から「実用的なアシスタント」へと進化した最新AIの能力に、
ぜひもう一度触れてみてください。

主な生成AIの種類 (1)

ChatGPT (OpenAI)

日本国内で最も多く利用されているAI。

自然な会話やクリエイティブな文章作成、プログラミング支援に強みがあります。

GPTsという独自のカスタマイズAIを作成・利用できる点が特徴です。

無料プラン : 標準モデル(GPT-5 miniなど)を利用可能。上位モデルは回数制限あり

Plus (月額 \$20) : 最新モデルの利用や利用回数枠が拡大、画像生成やGPTsの利用が可能

Pro/Team/Enterprise : さらに上位となるプラン、チーム利用・大企業向けのプランあり

主な生成AIの種類 (2)

Gemini (Google)

Google検索と連携した最新情報の取得や、論理的な要約・分析に優れています。

GmailやGoogleドキュメントなど、Google Workspaceと深く連携できるのが強みです。

無料プラン : 標準モデルを利用可能。上位モデルは回数制限あり

Google AI Pro : 月3,000円程度で上位モデル利用可。2TBのGoogleドライブも使える。

Workspace (法人向け) : Business Standardプランで月2,000円程度。

Google Workspaceのビジネス機能が使え、さらにGeminiの上位機能も利用可能。

主な生成AIの種類 (3)

Copilot (Microsoft)

Microsoft 365アプリ (Word, Excelなど) 内で直接利用することができ、
日常的に行う文書作成の補助や自動化に強みがあります。

無料プラン : EdgeブラウザからチャットでのAI標準機能を利用可能。

Copilot Pro : 上位モデルが使えるほか、最大のメリットは、Microsoft 365アプリ
(Word, Excel, PowerPointなど) 内で直接Copilotが利用可能になる。

Microsoft 365のサブスクリプション契約に加えてCopilot Proの契約が必要。

その他の生成 AIサービス

Claude(Anthropic)

文章生成能力が高く一度に扱える文章量も多いため、
弁護士など文章作成補助をメインにAIを利用する人に支持されています。

Genspark(MainFunc) Manus(Monica)

いずれもAIによるスライド生成や、ブラウザの自動操作など業務を効率化・自動化するための
エージェント機能が搭載されています。ただしセキュリティ面で不安視する声もみられ、機密情報
の取り扱いには注意が必要です。

どの生成AIを使うべきか？

💰 **コスト**: 各社とも一人当たり月額約2,000円~3,000円程度。

有効活用できれば投資効率は非常に良い。

🛡️ **セキュリティ**: 業務利用であれば無料版より有料版、個人版より法人版のプランを推奨

🗨️ **それぞれ得意分野がありますが、性能的には日々追いつけ追い越せの状態です。**

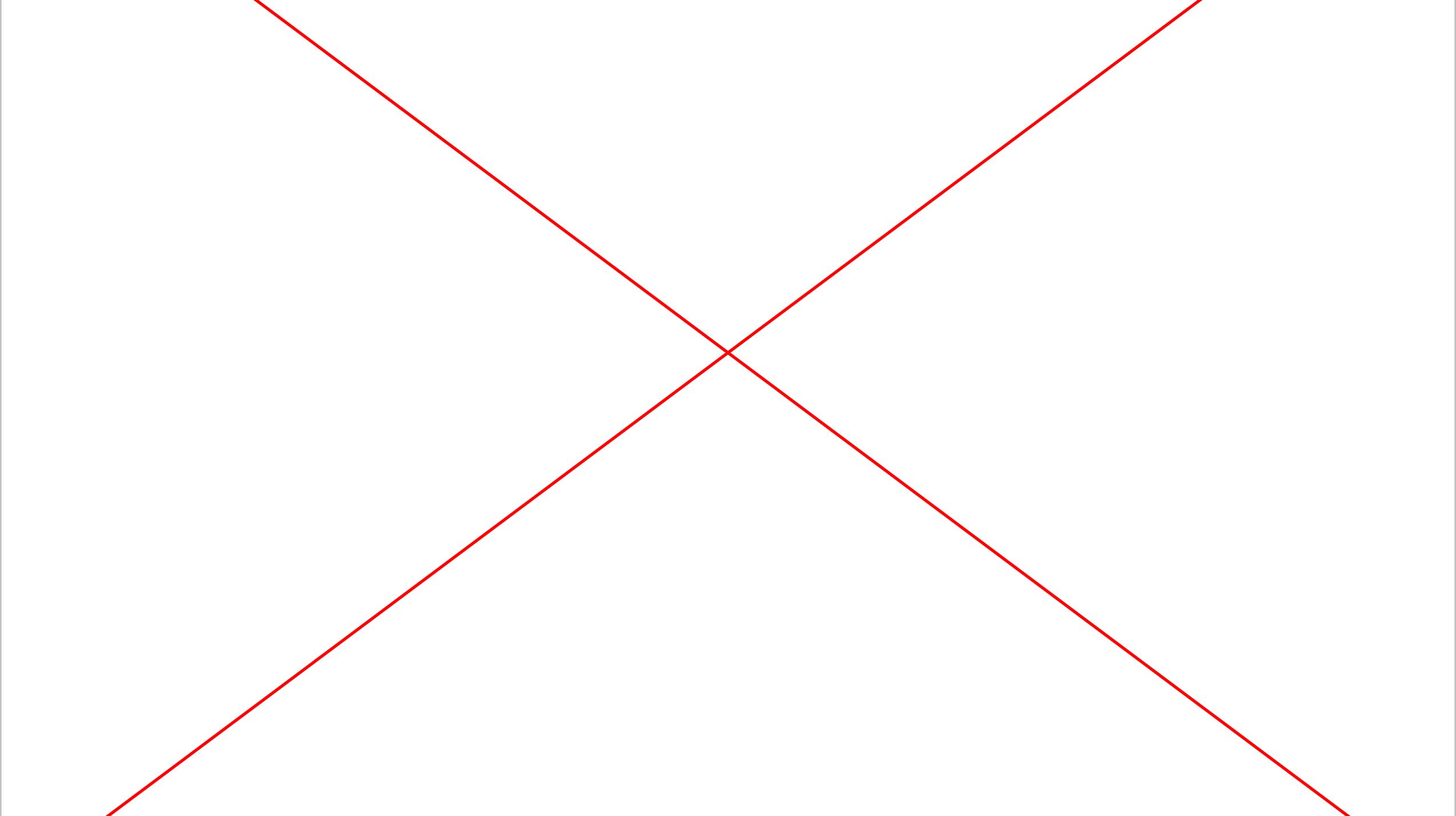
個人的には→税理士事務所が使う際に非常に便利なNotebookLMの有料版が使える、

Geminiの上位プランも使える GoogleWorkspaceのBusiness Standardプランがおすすめ。

Microsoft中心ならCopilotの導入がスムーズだが、Microsoft365のサブスク使用が前提。

「とりあえず試したい」なら利用者の多いChatGPTもおすすめです。

第1部：AIを利用した情報収集と ハルシネーションのリスク



生成AIに税務の疑問を投げかけた職員。

AIが示した回答は、

存在しないはずの裁決事例でした。

よくある使い方: AIに質問する

「会社の社長がスーツ代を
経費にしたいと言っています。
経費にできますか？」

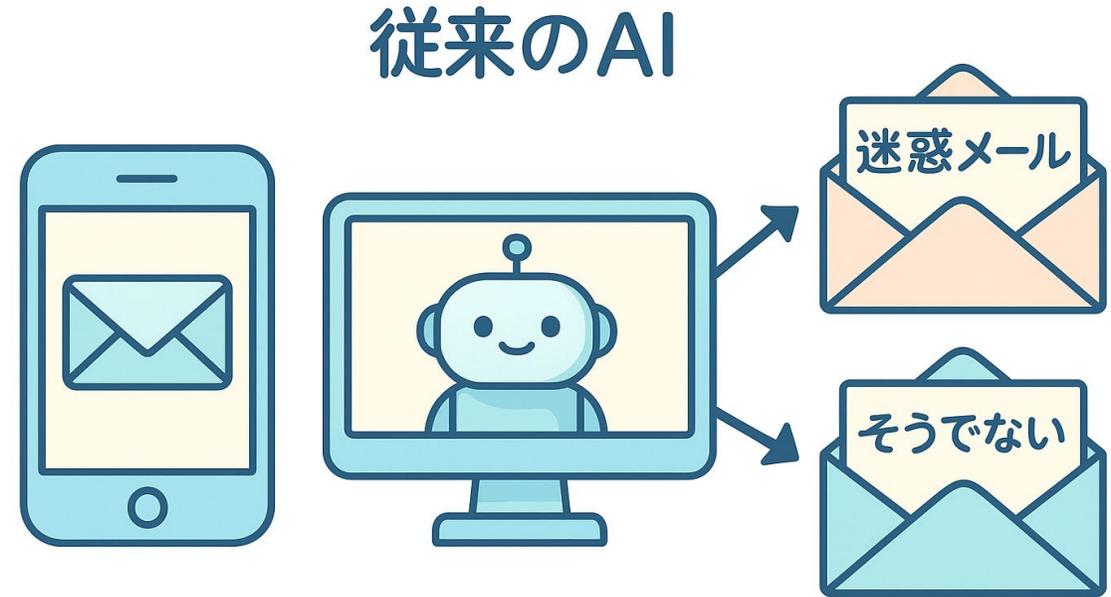
よくある使い方: AIに質問する

「親が亡くなり空き家となった
家を取り壊し、土地を2つに分筆して
半分を売却。残った土地に相続人が家を
建てて住む予定。売却した土地に
空き家の特例は使えますか？」

AIの仕組み: 従来の AI

「正解」を導き出す

機械学習に基づき、
「迷惑メール」か「そうでないか」など、
決まった正解に分類するのが得意でした。



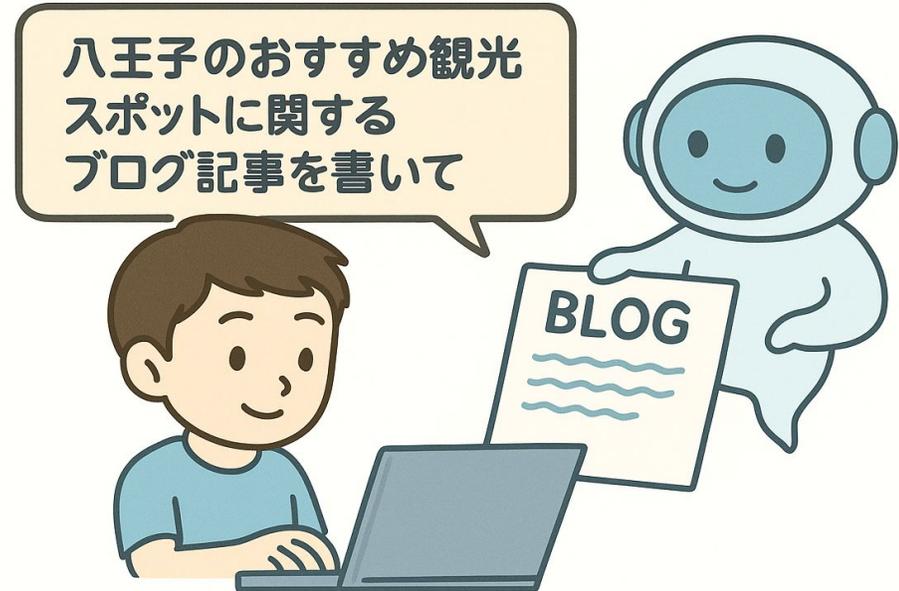
機械学習に基づいて、正解を求める

AIの仕組み:生成 AI

「創造的な答え」を生み出す

「決まった正解がない」ことを得意とします。「八王子の魅力伝えるブログ記事」など、新しいアウトプットを生成します。

生成AI



決まった正解はない問いに対して創造的な答えを生み出す

LLMとは

Large Language Models (大規模言語モデル)

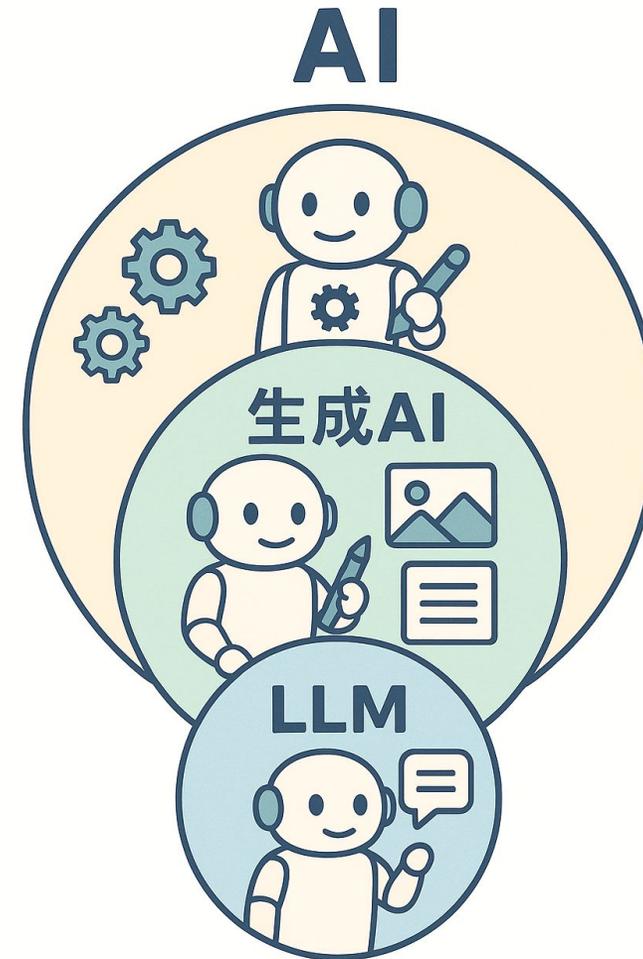
インターネット上の膨大なテキストデータ(文章や書籍など)を学習することで、
文法や単語同士の関連性、文脈を理解しています。

その結果、まるで人間が書いたかのような自然な文章を作成したり、質問に答えたり、
文章を要約したりすることができるAI技術の一種です。

AIのカテゴリ

AI ⊃ 生成AI ⊃ LLM

- AI:
機械学習による技術全般
- 生成AI:
コンテンツを「生成」することに特化
- LLM:
テキストをもとにテキストを返すAI

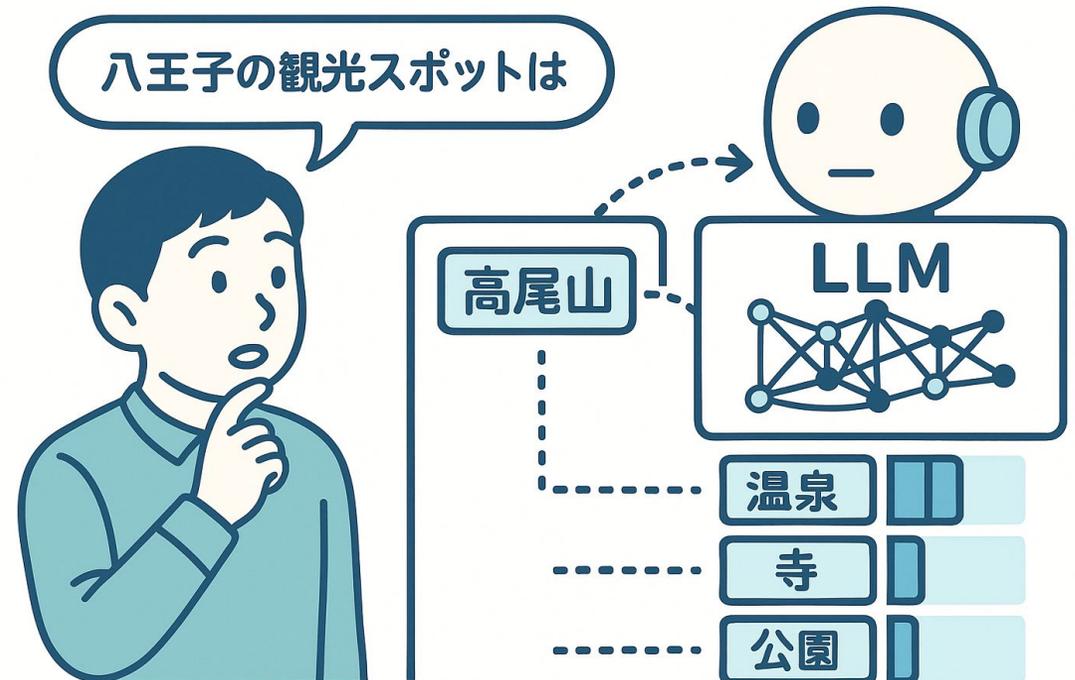


LLMの動作原理

統計的な「次に来る単語」の予測

元の文章に続く「統計的に最もそれらしい」単語を選んで繋げています。

AIが深く「思考」しているわけではなく、あくまで確率的な推測です。



AIは税務判断に使えるか？

結論：生成 AI の特性を理解したうえで使わないと危険

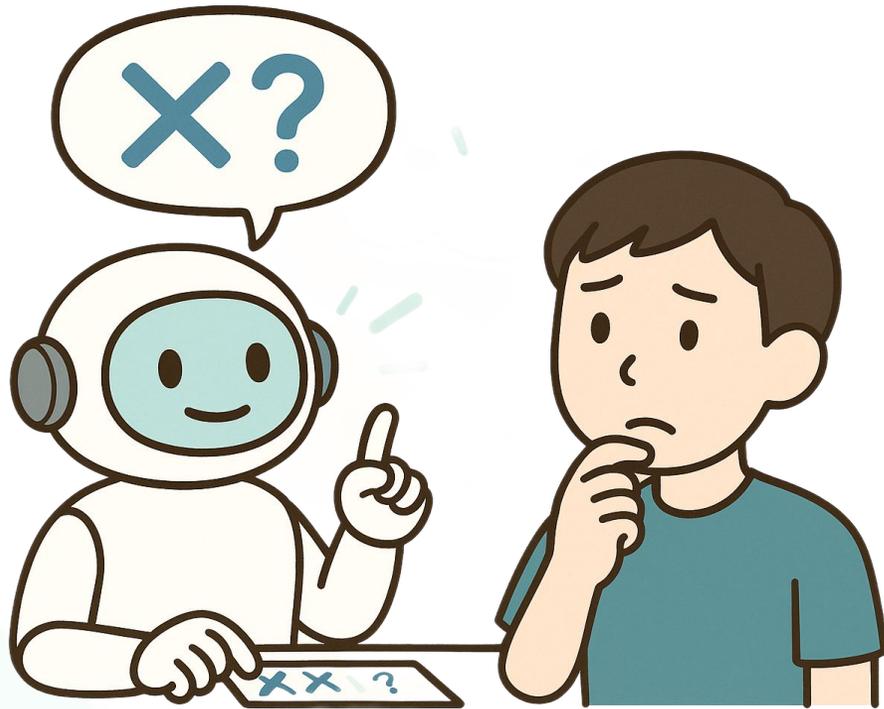
⚠ **理由①**: そもそも100%の正確性が求められる分野は苦手(統計と確率で動くため)。

📄 **理由②**: 学習データが古い、間違っている、または不足している場合

特に税理士でも迷うような高度な論点、マイナーな論点については、

統計的に正しく出力するだけの情報が不足している(存在しない)ことが多い。

最大のリスク: ハルシネーション



ハルシネーションとは？

AIが、一見もっともらしい間違った内容や、架空の判例を堂々と回答する現象です。

2023年、米国の弁護士がAIの回答(架空の判例)をそのまま提出し、制裁を受けた事例もあります。

ChatGPTで資料作成、実在しない判例引用 米国の弁護士

ChatGPT [+ フォローする](#)

2023年5月31日 6:54



保存



Think! 多様な観点からニュースを考える

福井健策さんの投稿



弁護士はChatGPTで裁判資料を作成していた=ロイター

【ニューヨーク=吉田圭織】米東部ニューヨーク州の弁護士が審理中の民事訴訟で資料作成に米オープンAIの生成AI（人工知能）「Chat（チャット）GPT」を利用した結果、存在しない判例を引用してしまったことが問題となっている。米紙ニューヨーク・タイムズなどが報じた。

ハルシネーションの原因

AIの評価(調整)の問題

「分かりません」と答えるより、「間違っているとしても良いのでとりあえず答える」方が評価上のスコアが高くなる。そのためAIも「わからないと答えるよりも、なんらかの答えを出した方が良い」と学習・動作している側面がある。



AIとの向き合い方

”

AIは「判断のための情報収集ツール」。
最終的な判断は人間が行う。

”

税務判断とはそもそも相性が悪く、
ハルシネーションを100%防ぐのは現状不可能です。

情報収集ツールとしての使い方

プロンプト(指示)を工夫すると使いやすくなる

-  裏取り(ファクトチェック)がしやすいように情報源を明示させる
-  使いやすいように出力させる
-  信頼できる情報源(国税庁のサイトなど)に限定させる

効率の良いプロンプトの作り方

AIにプロンプトを作ってもらおう

AIに質問を繰り返し、どのような調べ方・出力をしてほしいか改良していく。

最後に「こういう回答をしてほしいのでプロンプトを作って」と投げかける

良いプロンプトは GPTsやGEMとして登録する

プロンプトをすぐに使えるようにしておく。

プロンプトは自分でブラッシュアップし続ける。

プロンプトを貼り付け、「もっとこうしてほしい」と改善してもらおう

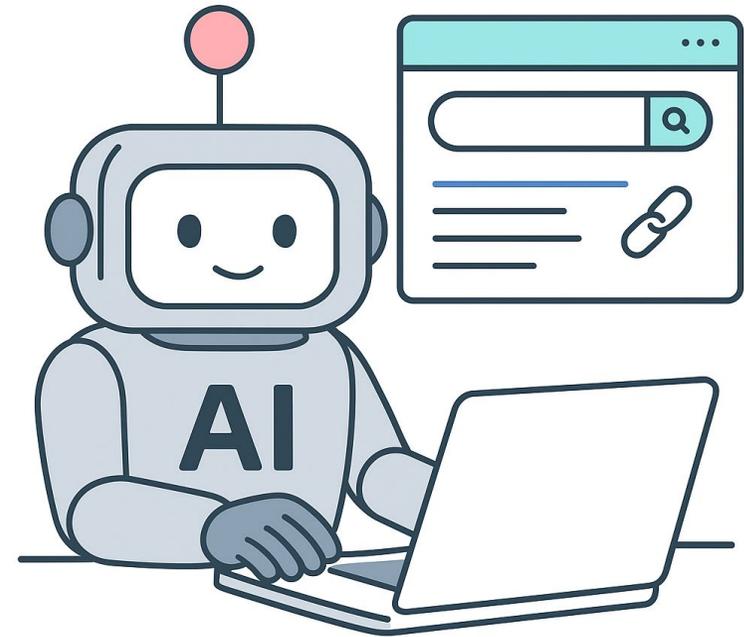
ディープリサーチの機能を使う

ディープリサーチとは

AIがインターネット上の情報を横断的・深く調査し、レポート形式でまとめてくれる機能です。

(ChatGPTやGeminiに搭載)

複雑なプロンプトなしで、情報源を明示しながら質の高いリサーチが可能です。



ハルシネーション対策：RAG

RAG（検索拡張生成）

AI自身の記憶（学習データ）ではなく、あらかじめ指定された「信頼できる資料（PDFなど）」をもとに検索・参照して回答する技術です。

これにより、AIが「知らないこと」を憶測で答えるのを防げます。



RAGの活用例: NotebookLM

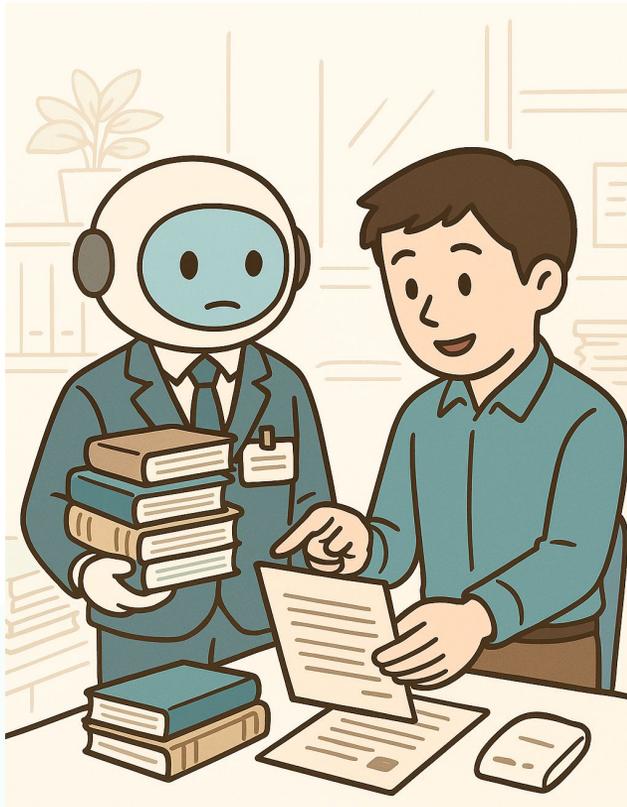
信頼できるソースに限定

Googleの「NotebookLM」に、
今年の「年末調整の手引き」PDFを読み込ませ、チャット形式で質問します。
AIは必ずその手引きに基づいて回答するため、古い情報や憶測が混じりません。



【まとめ】AIは「知識は膨大だが経験ゼロの新入社員」

知識はあるが、仕事はまだこれから

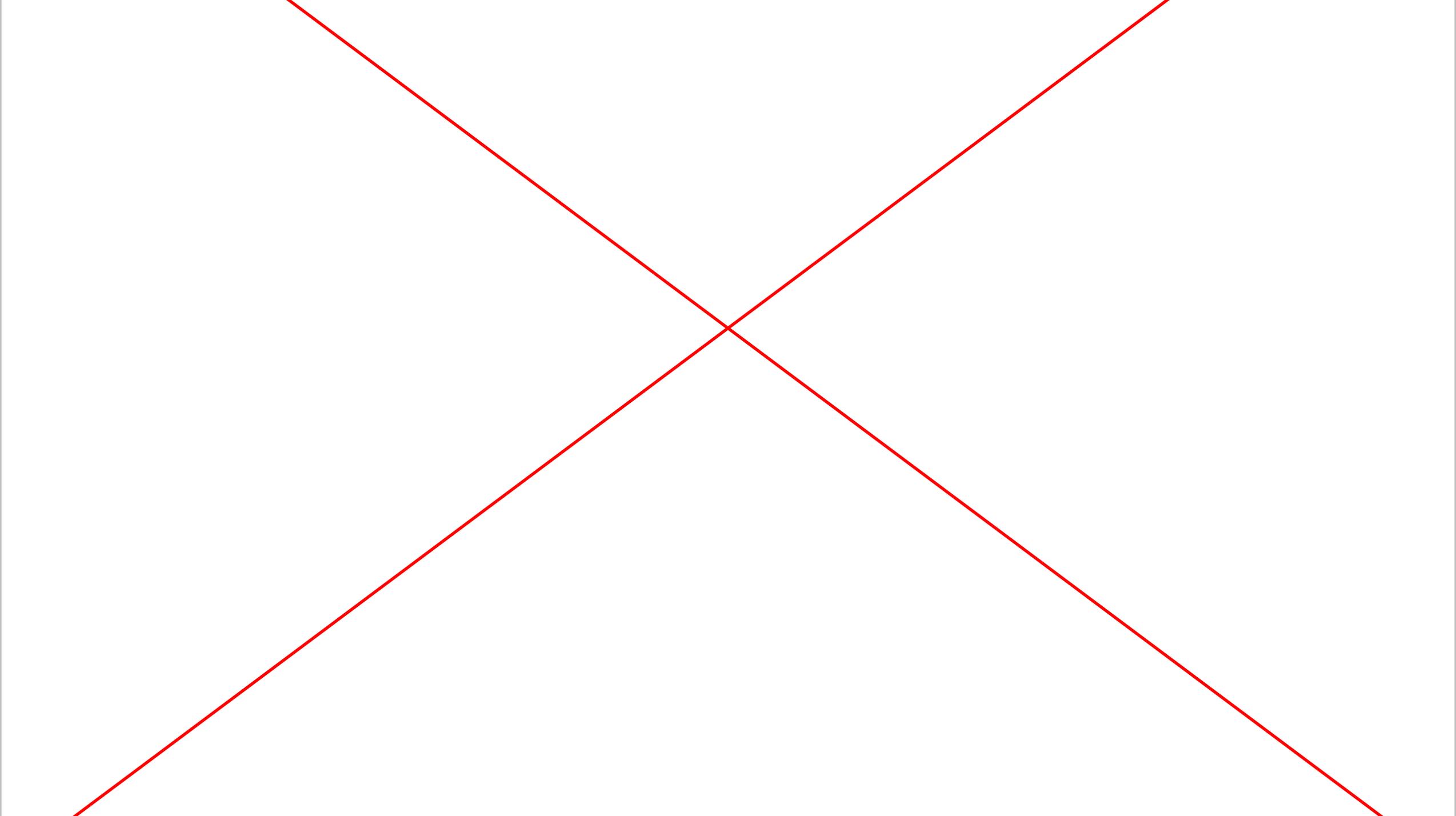


AIは膨大な知識を持ち、聞けば何でも流暢に、そして自信満々に答えてくれます。そのため、「AIの言うことは全て正しい」と錯覚してしまいがちです。

しかし、AIには「現場の経験」や、目の前の「個別具体的な状況」を汲み取る判断力はありません。

その回答(仕事)に対し、必ず専門家である私たちが厳しく確認を行い、最終的な判断を下す必要があります。

第2部：生成 AIによる文書作成と 情報漏洩リスク



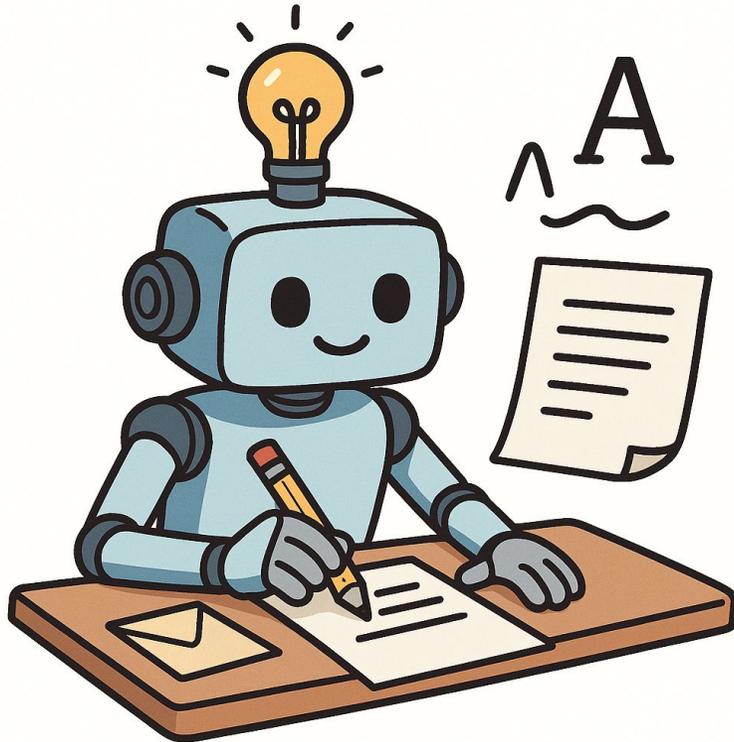
とても出来のいい報告書を作り上げた職員。

AIに顧問先の資料を

丸ごとアップロードして作ったようです。

セキュリティは大丈夫なのでしょうか？

AIの得意分野



「正確性」より「創造性」

AIは「100%正確な答え」は苦手ですが、
「文章を創造する」のは非常に得意です。

メールの下書きや複雑な報告書作成などで
真価を発揮します。

音声入力のすすめ



従来

精度が低く、
漢字の誤変換も多い。
結局タイピングが
早いということも。



現在

文脈に応じた
漢字変換。
AIが文章の組み替えや
体裁まで調整。



効率化

「考えてから打つ」
→「**考えながら喋る**」
スピード感が
全く違います。

音声入力の使い方

Windowsの標準機能 → 生成AI

Windowsには標準機能として音声入力が搭載されています。またChatGPTなど主要なAIには音声入力用のボタンがあります。これで入力した文章を生成AIに整えてもらいます。

専用ソフト Aqua Voice(月額1,500円程度)

音声認識の精度が高い上、ソフト自体にAIが組み込まれているため、

音声入力の段階でAIがリアルタイムに文章を整えてくれます。

あらかじめプロンプト(「こういう風に直して」という指示)や専門用語を登録でき、

自分なりのカスタマイズがしやすいのが特徴です。

音声入力活用時のポイント

マイクにこだわる

パソコンに標準でついているマイクだと精度が悪くなります。有線の外部マイクが望ましいです。無線はBluetooth方式だと別の機器と干渉する可能性があります。

長文ほど精度があがる

漢字の変換などは文脈を読み取って調整するため、長文であれば長文であるほど精度は上がっていきます。単語を打つときなどはキーボードで打ってしまった方が早いので、使い分けが大事です。また、人名はAさんBさんなどと入力して、後で置換機能を使うという方法もあります。

活用事例 (1): メール作成

メール作成

メールを読ませ、これに対する返信文を作っ
て、AIに下書きを作らせるというのも有効です。

人間がさっと直すだけで時短になります。

Geminiの有料プランを使えばGmail上で
返信文を生成できます。

【プロンプト例】

下記のメールに対する返信文を考えてくださ
い。内容について承知した旨、次回打ち合わ
せは11月25日の15時~としてください。必要
なものは特にありません。

(メールの元の文章を貼り付ける)

活用事例 (2): 報告書・説明資料

音声入力 & AIでたたき台作成

音声入力をもとにAIで文章を整え、説明資料を作成します。長文であればあるほど音声入力 & AIの威力が発揮されます。

ゼロから資料を作るのは大変ですが、たたき台があるだけで精神的にも楽です。

【プロンプト例】

音声入力の内容を、以下のルールに従って税理士が顧客に向けた報告書として整形してください。誤字脱字、文法的な誤りをすべて修正してください...(音声入力の文章を貼り付ける)

活用事例 (3): 月次報告書

スクショから報告書をつくる

AIは画像を読み取ることも可能です。

会計ソフトの前期比較試算表のスクリーンショットをもとに、指定したフォーマットで報告文章を生成させます。

【プロンプト例】

前期比較試算表の画像をもとに、下記のフォーマットで報告文を作成してください。「お世話になっております。○年○月分のご報告です。売上の累計が○円(前年比○円増)...

活用事例（4）：税理士添付書面の添削

AIにチェックしてもらうのも有用

税理士添付書面の有用事例集などをAIに読み込ませ、自分が作成した添付書面の添削や改善案を出してもらいます。

他の目線から添削してもらうことで、添付書面の質を向上することが可能です。

【プロンプト例】

税理士法第33条の2に規定する書面添付制度により提出する添付書面について、知識として共有した有用事例集などを基にして、訂正・追加すべきものなどを教えてください。

活用事例 (5): 議事録の作成

会議の数分後に要約完成

専用ツールを用いて文字起こし・要約する方法のほか、スマホで録音した音声データをAIに文字起こししてもらうことも可能です。所内での会議などを要約し、次のタスクを洗い出したり、マニュアルなどの形で資料化することも可能です。

【専用ツールの例】

- ①Notta 日本企業でセキュリティも安心。月120分までは無料。
- ②PlaudNote 専用のボイスレコーダーを使って高精度な文字起こしが可能。
- ③NotionAIミーティングノート など

活用事例 (6): セミナー資料作成

セミナーのスライド作成

開催チラシをAIに読み込ませ、セミナーのアウトラインを作成。AIと壁打ちしながら内容を詰め、Geminiのスライド生成機能でスライドの骨子を作成し、Googleスライドで細部を調整します。

【スライド生成機能の例】

- ① Gemini Canvas機能からスライド生成
→Googleスライド出力が可能。
- ② Copilot PowerPoint上で自動生成可能
- ③ Genspark・Manus プロンプトからのAIスライド作成機能あり。

生成AIに情報を入力するリスク

顧問先の機密情報をどう守るか

知っておくべき AIの「学習」リスク

学習とは、入力データが AIの「教科書」に使われること

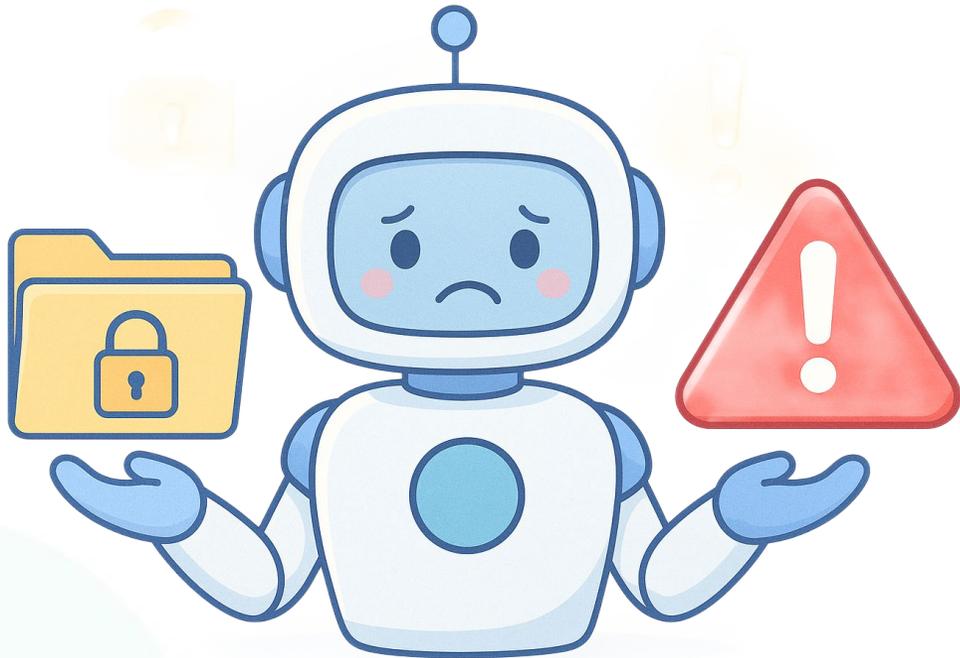
「学習」とは、ユーザーが入力した情報を、AIサービス提供者（OpenAIなど）がAIモデルの性能を改善したり、将来の新しいモデルを訓練（トレーニング）したりするために利用することを指します。

例：税理士事務所が顧客の機密情報を生成 AIに入力する

入力された機密情報が、AIの「学習データ」に組み込まれる。

将来、まったく別のユーザー（例えば競合他社）が関連する質問をした際に、あなたが入力した機密情報に基づいた回答が生成されてしまう（情報が漏洩する）可能性

AIに学習させることで違反行為になる可能性も



「保管」と「学習」は違う

AIが情報を「学習」に利用することと、クラウドにデータを保管することとはリスクの次元が異なります。

顧客の機密情報を学習される設定で入力すると、顧客との**秘密保持義務違反・個人情報保護法違反**になる可能性があります。

学習させない設定(オプトアウト)



最初は「学習 OK」になっている

多くのAIサービスでは、個人向けプランの場合デフォルトで「入力内容を学習に使う設定」になっているため、自分で「学習させない設定」に切り替える必要があります。(企業向けプランでは多く場合「学習しない」が標準設定となります)

モデルの改善

すべての人のためにモデルを改善する

あなたのコンテンツをモデルの学習のために使用することを許可してください。ChatGPT をあなたや他のユーザーにとってさらに有益なものにすることができます。弊社ではお客様のプライバシーを保護する措置を講じています。[詳細を見る](#)

自分で設定をオフにする

学習させない設定ならなんでも入力していい？

学習させない設定でも過信は禁物

仮に学習させない設定でも、OpenAIなどのAIサービス提供者がデータ漏洩してしまえば入力内容が流出してしまう可能性があります。また顧問先の同意なく、その機密情報を第三者のサーバーに送信する行為そのものが、秘密保持義務に抵触する可能性があります。

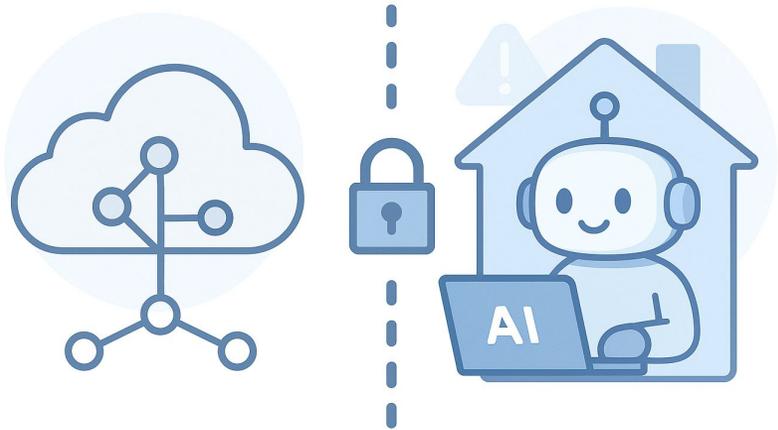
安全なAI活用のための鉄則は「多層防御」

第1の壁(必須)：有料プランや法人プランを契約し、学習させない設定を必ず行う。

第2の壁(推奨)：入力する情報からは「顧客名」「個人名」「会社名」などの固有名詞を削除(または仮名に置き換え)する「匿名化」を行う。

【参考】ローカル LLMとは？

今後の税理士事務所は必須になる？



ChatGPTなどはクラウド上にあるAIサーバーに接続して利用するのに対し、自社のPC(サーバー)内で動作するモデルをローカルLLMといいます。データを内部で処理するため情報漏洩リスクをなくすことが可能ですが、高いPCスペックが必要など導入には高い壁があります。

今後、税理士事務所のように高度な機密情報を扱う業界では、「ローカルLLM」の導入がスタンダードになっていく可能性も考えられます。

取るべき対策 (1): 信頼できるサービスの選定

STEP 1:

リスクのあるサービスは使わない、これが「防衛の第一線」です。規約を読み、入力データがどのように扱われるかを確認します。基本的にはGoogleやMicrosoftなどの大手サービスを利用するのが無難です。



取るべき対策 (2): 安全なプランの利用

STEP 2:

できれば個人用ではなく企業(事業者)用プランを利用します。

これらの多くは、「入力データを学習しない」ことが規約で明確に保証されているほか、企業向けのセキュリティ水準で利用することが可能です。



取るべき対策 (3): 事務所内のルール作り

STEP 3:

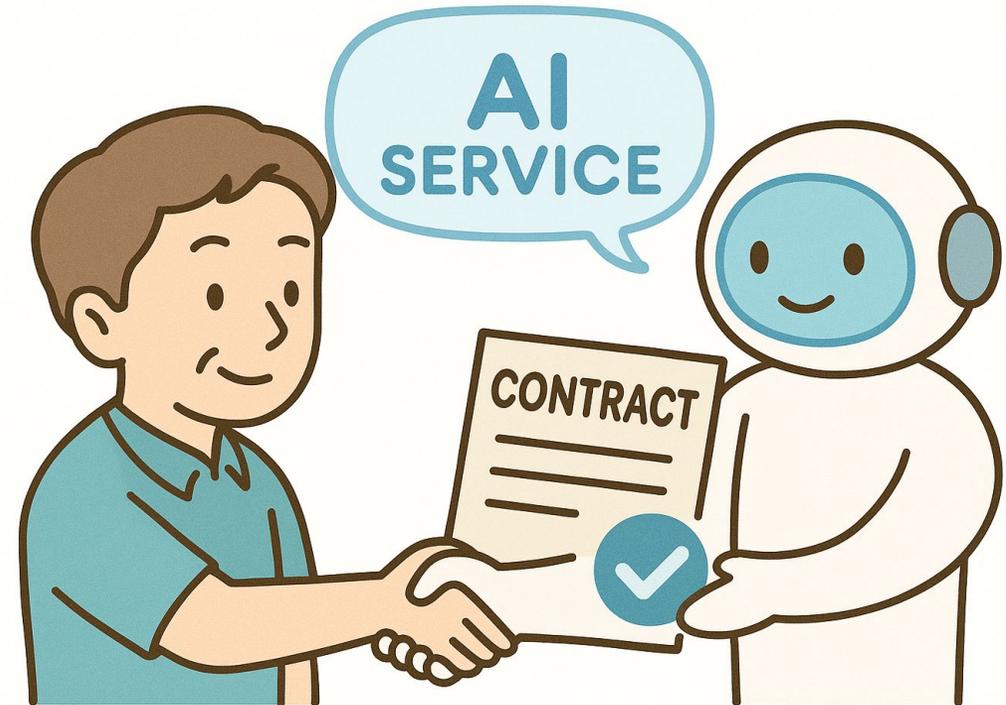
「事務所にルールがない」ことが最大のリスク。
ルールがなければ職員が勝手にリスクのある
使い方をしてしまう可能性があります。どこまで
AIを使っていいのか、入力禁止情報(顧問先
名、個人名など)を具体的に定め、職員がうっ
かり入力する事故を防ぎます。



取るべき対策（4）：顧問先との契約

STEP 4:

最も確実な法的リスクヘッジは、顧問先から「AIサービスを利用すること」について明確な同意を事前に得ることです。可能であれば契約書の見直しを行うことも検討を行います。



取るべき対策（4）：顧問先との契約

契約内容の文例（参考）

貴社及び税理士は、税理士がその委託業務の実施上必要な範囲で、ChatGPTなどのテキスト、画像、音声などを自律的に生成できるいわゆる生成AI（以下、「生成AI」という。）を利用する際に、生成AIに秘密情報を入力することがあることに予め同意します。税理士は生成AIの利用にあたって、当該利用により第三者に貴社の秘密情報が漏洩しないよう注意するものとし、万一当該利用により秘密情報が漏洩した場合、行為当時の通常人の注意では予期し得ない事態によるものを除いて、貴社に対してこれによる損害を賠償するものとしします。

【まとめ】AIリスクとどう向き合うか

最終的には「事務所でルールを決める」しかない



生成AIの利用については法整備が追いついておらず、法的にグレーな部分が多くあります。「AIを一切使わない」という判断も、「リスクを管理した上で活用する」という判断も、どちらも事務所の経営判断となります。

最終的には、事務所として「どこまでのリスクを許容し、どこまでのリターンを求めるか」を議論し、「事務所独自の明確なガイドライン(ルール)」を策定・職員へ周知徹底する以外に、現実的な対応策はありません。

第3部：AI時代の税理士業務

税理士業務はどのように変わるのか



急速に進むAI時代。

はたして我々税理士の業務は今後
どのように変わっていくのでしょうか？

AIで進む「業務の自動化」

AIによる業務の自動化・効率化は、他の業界ですでに「現実」に

自動化の最も進んでいる分野の一つが「プログラミング」の世界です。

人間が指示し、AIが自動でプログラムコードを生成。

人間の役割はプロジェクト管理をして複数のAIに並列で指示をすることとなり、
一行一行コードを書く時代ではなくなってきました。

The San Francisco Standard

News Politics Business Opinion Culture Food & Drink Sports Games Podcasts

Business

‘White-collar recession’: Benioff says Salesforce won’t hire engineers this year due to AI

The CEO, who is all-in on AI agents, said he’s part of the last generation of executives who will manage a human-only workforce.

「ホワイトカラー不況」:ベニオフ氏、AIを理由にセールスフォースは今年エンジニアを採用しないと語る

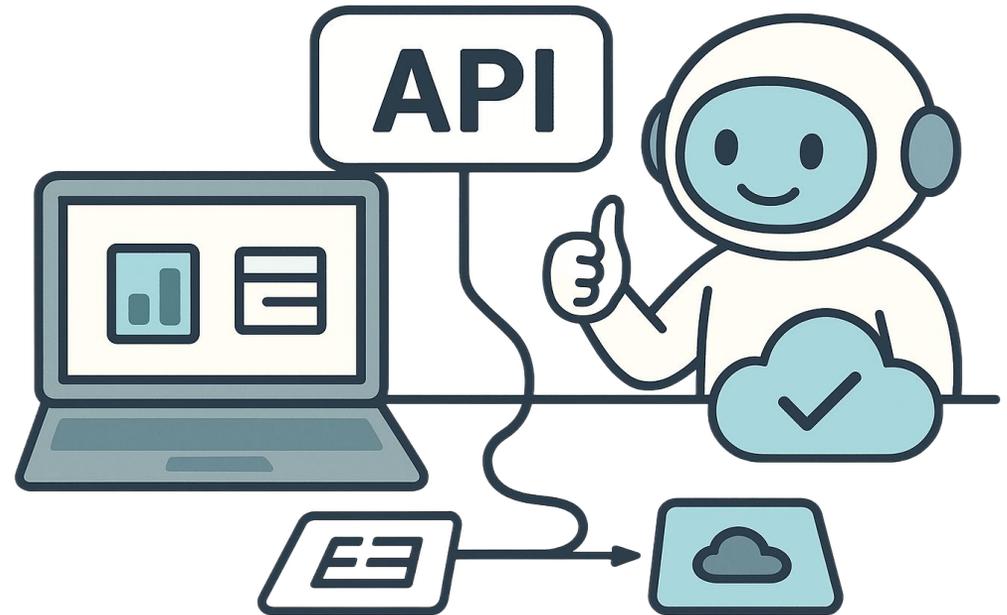
AIエージェントに全力を注ぐ同CEOは、自身が「人間だけの従業員」を管理する最後の世代の経営者になるだろうと述べた

AI時代のキーテクノロジー (1)

API (Application Programming Interface)

ソフトウェア同士がデータを連携・通信するための「つなぎ口」です。

例えば「Geminiで書類を読み取り、生成した仕訳をfreeeに登録する」といったソフトの垣根を超えた処理が可能になります。

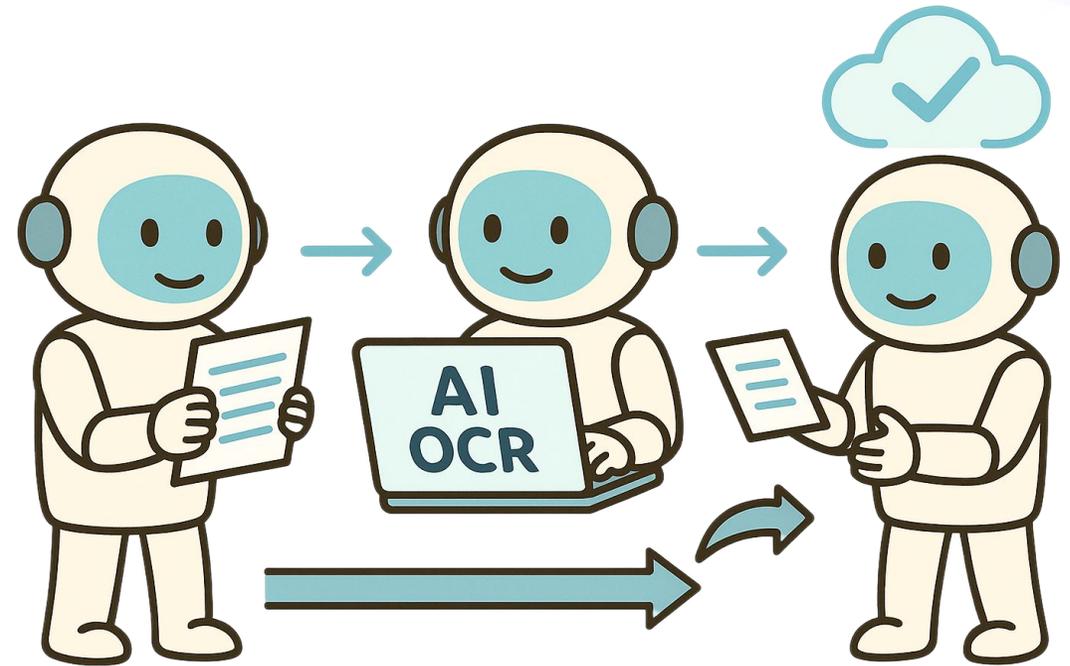


AI時代のキーテクノロジー (2)

AIワークフロー

従来のRPA(決まった作業の自動化)の延長線上にあるものです。

決められた作業の流れに、AIによる判断(例:AI-OCRでの読み取り)を組み込んだものです。



ワークフロー作成ソフトの例

Dify(ディファイ)

AIチャットボットやワークフロー(RAGなど)を開発できるプラットフォームです。

n8n(エヌエイトエヌ)

様々なWebサービスやAPIを繋ぎ、複雑なワークフローを視覚的に自動化できるツール。

Yoom(ユーム)

日本のSaaS(freeeやkintoneなど)との連携に強い、国産ワークフロー自動化ツールです。

Google Workspace Flows

GoogleWorkspace内のアプリ連携や作業を自動化するための機能です。2025年11月発表。

当事務所での“記帳代行 半自動化”事例



① 顧問先

証憑(レシート)を
スマホ等で撮影、
Googleドライブに
アップロード。

② Yoom (iPaaS)

更新を自動検知し、Gemini
が証憑を
読み取って
内容を判別

③ freee (API)

freee APIと連動し、
仕訳の下書きと証憑を
freeeへ送信。

④ 事務所

「仕訳の下書き」と証憑を見
ながら在宅スタッフが
最終チェックし登録。

記帳代行“半自動化”のメリット

-  **顧問先:** やることは「写真を撮るだけ」。記帳代行を依頼している感覚。
-  **事務所:** 入力より確認作業がメイン。工数は「自計化」に近いレベルまで削減。
-  **双方:** 入力ラグがなくなり、月次決算の大幅な早期化が実現。

AI時代のキーテクノロジー (3)

AIエージェント

ワークフローのさらに先にある概念です。

AIが自律的に(自発的に)「次に何をすべきか」を考え、判断し、作業を実行していきます。



AIエージェントが発達するとどうなるのか？

定例業務はAIが自動的に行う時代がくる？

例えば「月次決算を完了させる」という目的のために、自らデータを収集し、処理し、不明点を判断し、関係者に「問合せ」や「報告」まで自律的に行います。

税理士事務所の担当者は単純作業から解放され、
「不明点の最終確認」や「リスクを踏まえた判断」といった、
より高度な業務に集中できるようになります。

🔒 この記事は会員限定記事です

AIエージェントが雇用直撃 2026年はスーパーカンパニー出現か

本社コメンテーター 村山恵一 ～「日本の論点2026」から

村山恵一

+ フォローする

2025年11月9日 5:00 [会員限定記事]



保存



Think! 多様な観点からニュースを考える

遠藤直紀さんの投稿

生成AI（人工知能）を巡る世界的な競争に拍車がかかっている。伝統的な企業経営の物差しが必ずしも通用しなくなり、スーパーカンパニーとでも呼ぶべき新たなタイプの会社の出現が予想される。米中が覇権を争う構図のなか、日本は存在感の発揮を求められる。

AIエージェントが職場で同僚に

2026年、とくに注目すべきは普及期を迎える「AIエージェント」だろう。

これは大規模言語モデル（LLM）を頭脳にしてユーザ...

AI時代の事務所の課題 (1)

事務所の「知識・経験」を「データ」に変える

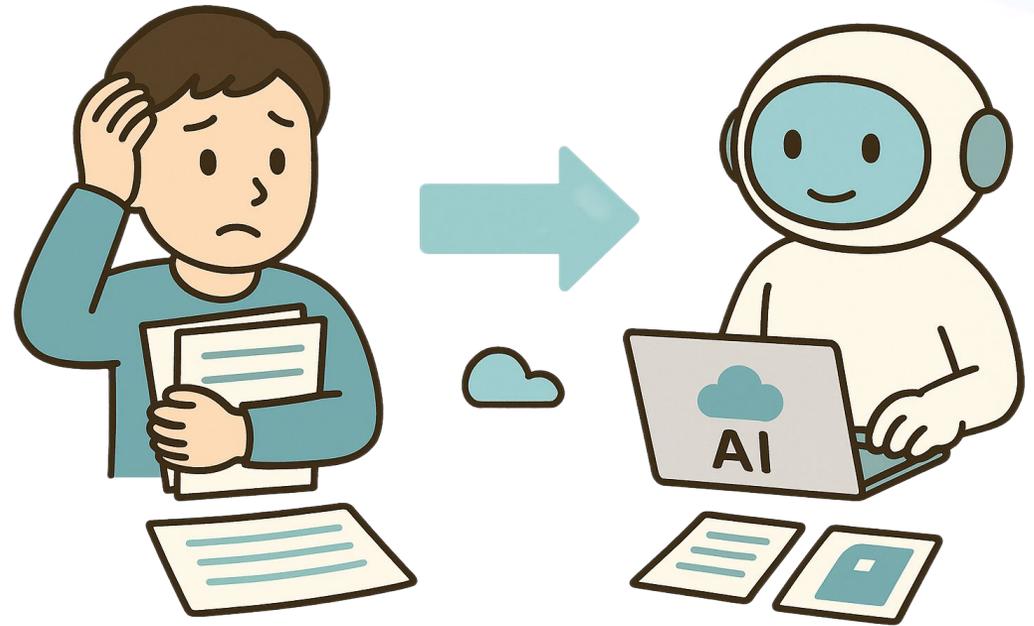
人の作業をAIワークフローに置き換えていくには、業務の言語化が必要です。現在事務所で行っている業務内容を、AIが読める形にマニュアル化していく必要があります。また紙の専門書などはデータで持っていることが価値をもつ時代になります。



AI時代の事務所の課題 (2)

業務プロセスの抜本的な組み替え

例えば従来の「紙で資料をもらう」体制のままでは、AI活用のメリットを享受できません。「AIが自動的に処理する」ことを前提とした業務プロセスに組み替えていく必要があります。



AI時代の事務所の課題 (3)

ソフトの選定

従来型のオンプレミス型ソフトの場合、他のソフトとの連携が難しく、自動化にあたって障害になる可能性があります。

完全な自動化を行うためには、例えばAPI連携が可能なクラウド会計ソフトに置き換えるなど、業務ソフトの変更対応が必要となる可能性があります。

(2025年11月時点で会計ソフトとしてAPI連携に対応しているのはfreee・マネーフォワードクラウドのみ。)

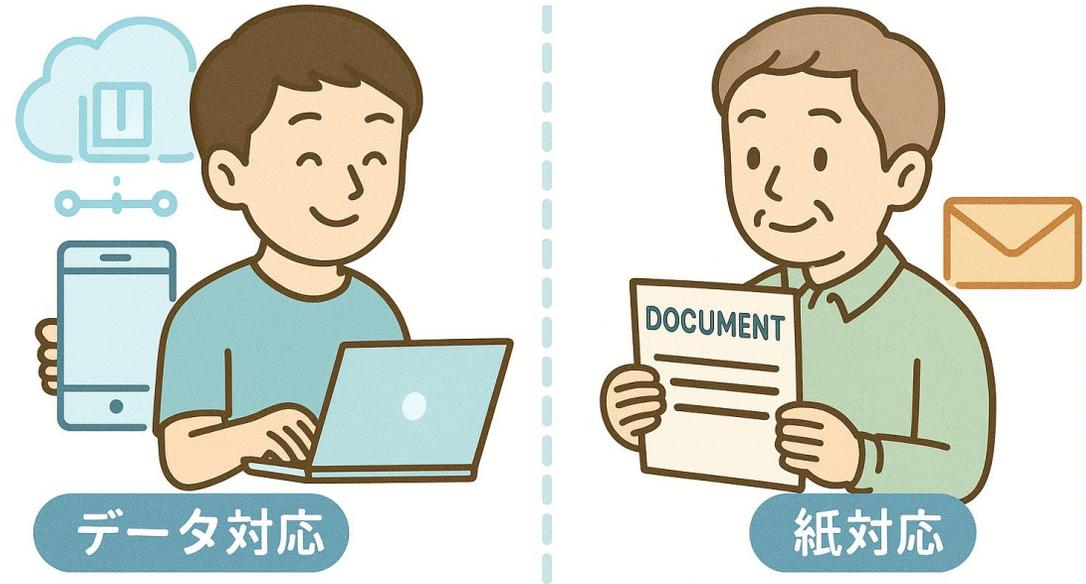
AI時代の事務所の課題 (4)

顧問先への対応と棲み分け

全ての顧問先に資料のデータ化を強制するのは困難です。

データ対応の顧問先と、従来の紙対応の顧問先とで、料金体系を変えるなどの対応が必要となる可能性もあります。

逆に紙対応を行うことが、税理士事務所として差別化になる可能性もあります。



【まとめ】AIは、また税理士の仕事を奪うのか？

「新しい技術の登場で、税理士は不要になる」

私たちは、この言葉を過去に何度も聞いてきました。コンピューター会計が登場した時、クラウド会計が普及し始めた時、RPA(自動化)が注目された時、その度に「税理士の仕事はなくなる」と言われ続けてきました。

「仕事がなくなるわけではないが、AIの登場により、私たちの業務プロセスは、また変わらざるを得ない」この事実をまず意識することです。この新しい流れの中で、私たち税理士はどのように対応し、どのように自らを変えていくべきか。それを考え、準備し、実行していくことこそが、AI時代を乗り越える唯一の道です。(と、Geminiが言ってました)

**ご清聴
ありがとうございました**